

デ
レ
ス
12
Rikudou Koushi
六道神士
YOUNG KING COMICS



デスレス
12
twELVE
Rikudou Koushi

contents

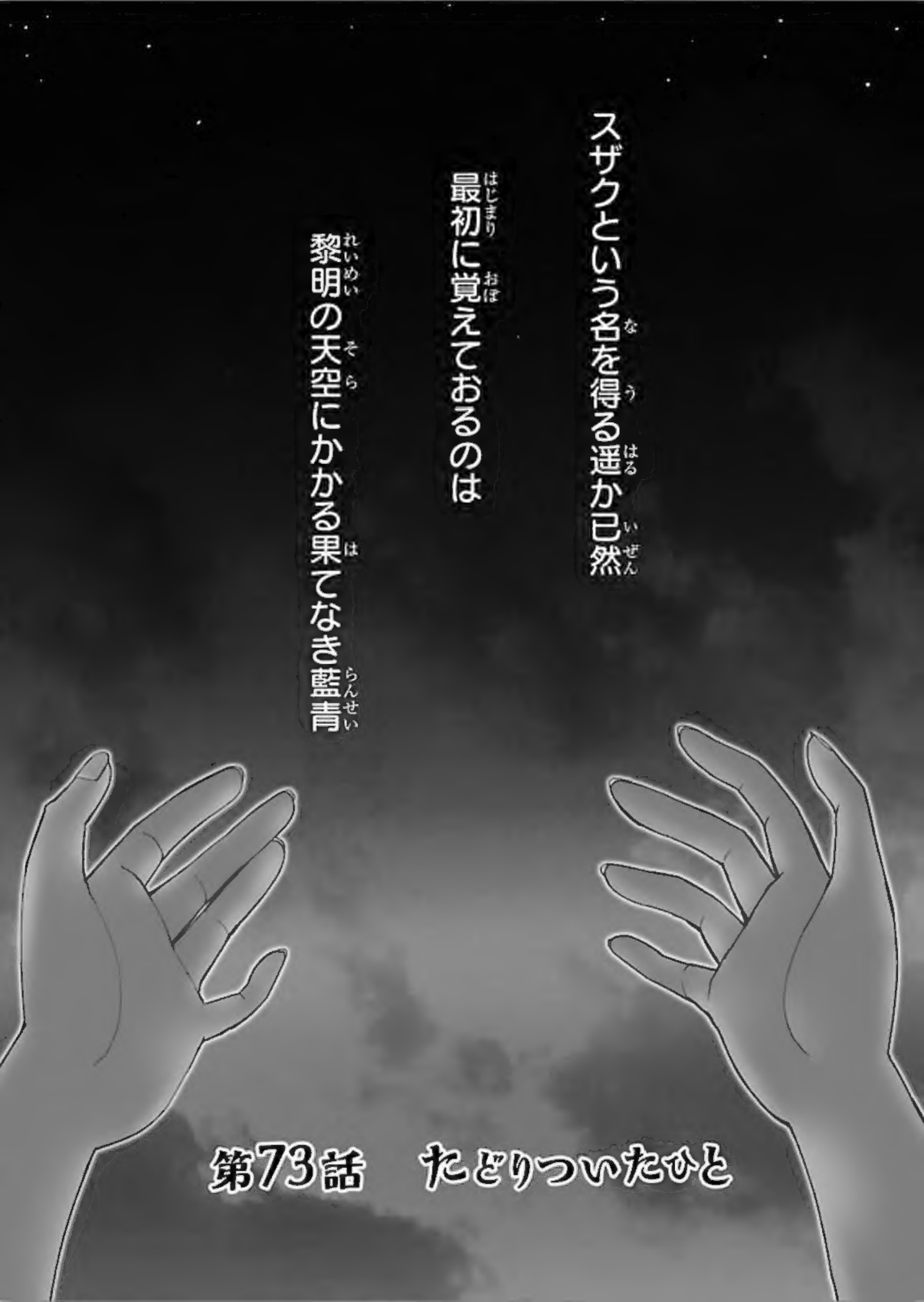
第七十三話
たどりついたひとびと・・・・ 1

第七十四話
ただひとりのひと・・・・・・ 31

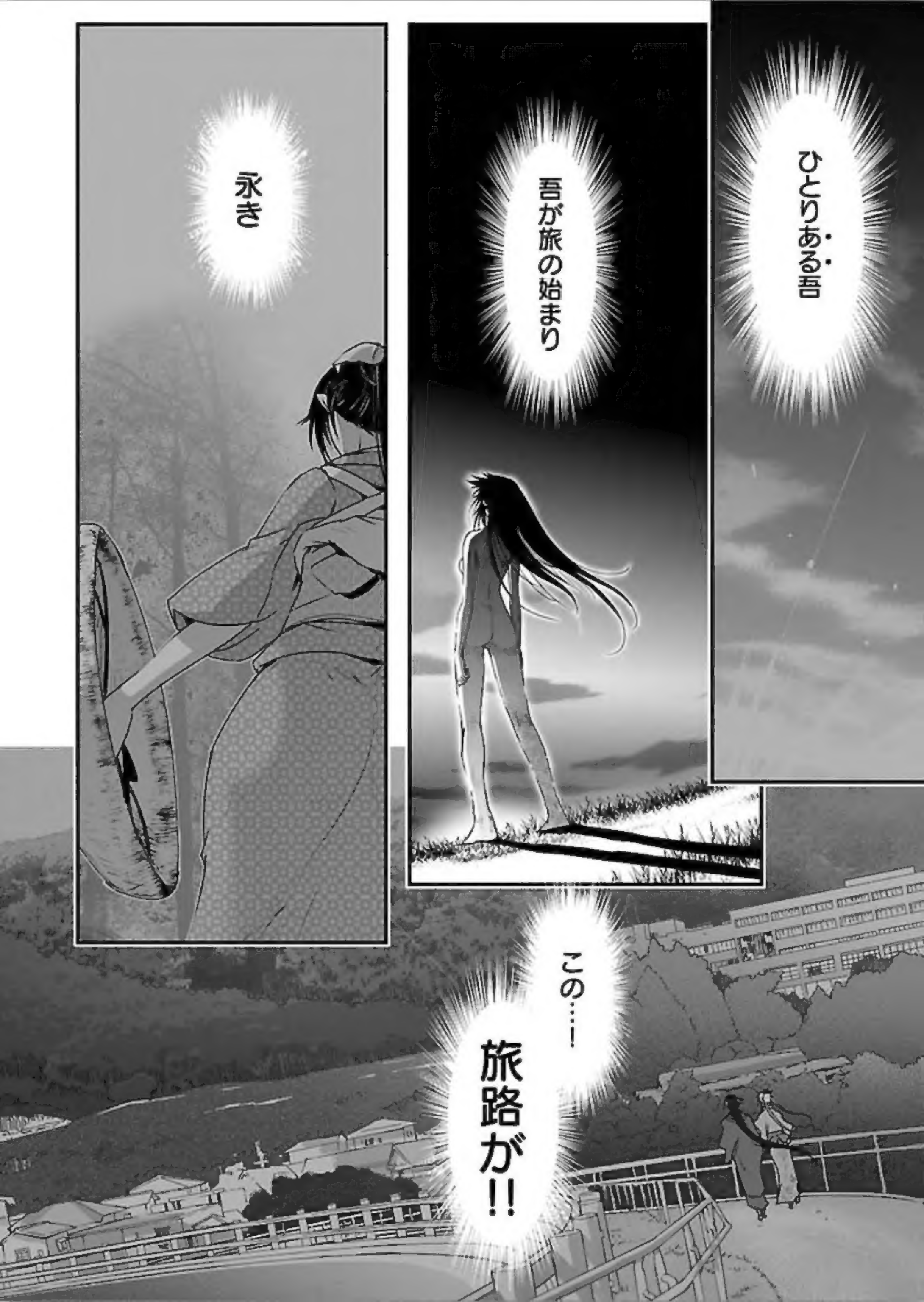
第七十五話
いきるひと・・・・・・・・・・・・ 61

最終話
不朽のひと・・・・・・・・・・・ 95





第73話　たどりついたひと


ひとりある吾
吾が旅の始まり
永き
この…！
旅路が!!


羅睺(こんなもの)の腹の中をうろついておっただけだと?
認められるものか!
…まして
まして…!
この永き旅の終わりが!!


羅睺の腹の中（こんなところ）でよい
わけがない！








うお!?
おお!
つ…釣れおった——


いくよー
なに？
！



ゴォオオ
く…？
まったく…
今のところ主導権は吾にある…のか？
ミズキ殿！
今はそれどころではないが…
今まで・・・どうなって・・・おったのか
のちほど篤と聞かせてもらうぞ！
ホエ
ホエ









ここは…
宙空の中…
羅睺の宙空だよ…


そんでここはなかのなかのなか……？
ふふふ
ややこしいね
普通お気楽な者がおると場が和むものだが…
不安になるの…
ここがあの巨人の…
でかぶつ
羅睺の中…！
ん？待ちやれ！
吾らは喰われたということか⁉
もとから食べられてるようなものだけど…
!!






死
死
消滅
これは…
教祖(あやつ)か…!


ぬ…
もう中まで
崩壊を始めてる
勝手に崩れようと
しておるのか？…
死のうと
しておる…と
言っておったが…
最悪 千年前に
地球まるごと
無くなってたことに
なったり
我が旅路の全てと
勝手に心中されるのは
たまらぬな
教祖は
相手に乗り移って
操る能力を
利用されたの


羅睺を殺せる
3つめの可能性
教祖を作り替えて
羅睺の脳髄に乗り移って
羅睺に自殺をさせようとしてるんだねー
楽しげに解説しておる場合か！ どうすれば止まるのだ！
やっぱり…止める？
止めいでか！
そなた…本当にミズキ殿か…！


此の世が滅ぶのだぞ!
滅びやしないよ
最悪 ここ千年くらい無かった事になって…9割くらいの生き物はもってかれるくらいで…
滅んどるではないか!
しばらくすればもとにもどるでしょ
……な…
……あたし達には
関係なくない?


関係ないものか
見知った者達が消えてゆくのだぞ！
だって同じでしょ？
いつかいなくなるのも
今消えるのも
スザクもそうだったでしょ？


どんなにかかわっても
みんな消えていく
みな
先に――
みんなが覚えてる間は「思い出」でいられても…
みんながいなくなるころには意味さえ無くなってる
一日も百年もおなじ…
ミズキ殿…いったい…


どうしたというのだ…
まるで立場が逆だ…
これでは吾のほうが以前のミズキ殿のようではないか
ミズキ殿の言葉のほうが吾の言いそうな——
いいや
違うぞ！
好いたもの達を
程々に忘れた
悲しみも癒えた
…が無意味とは思わぬ
我が鳥よ
約定を——
…約束を

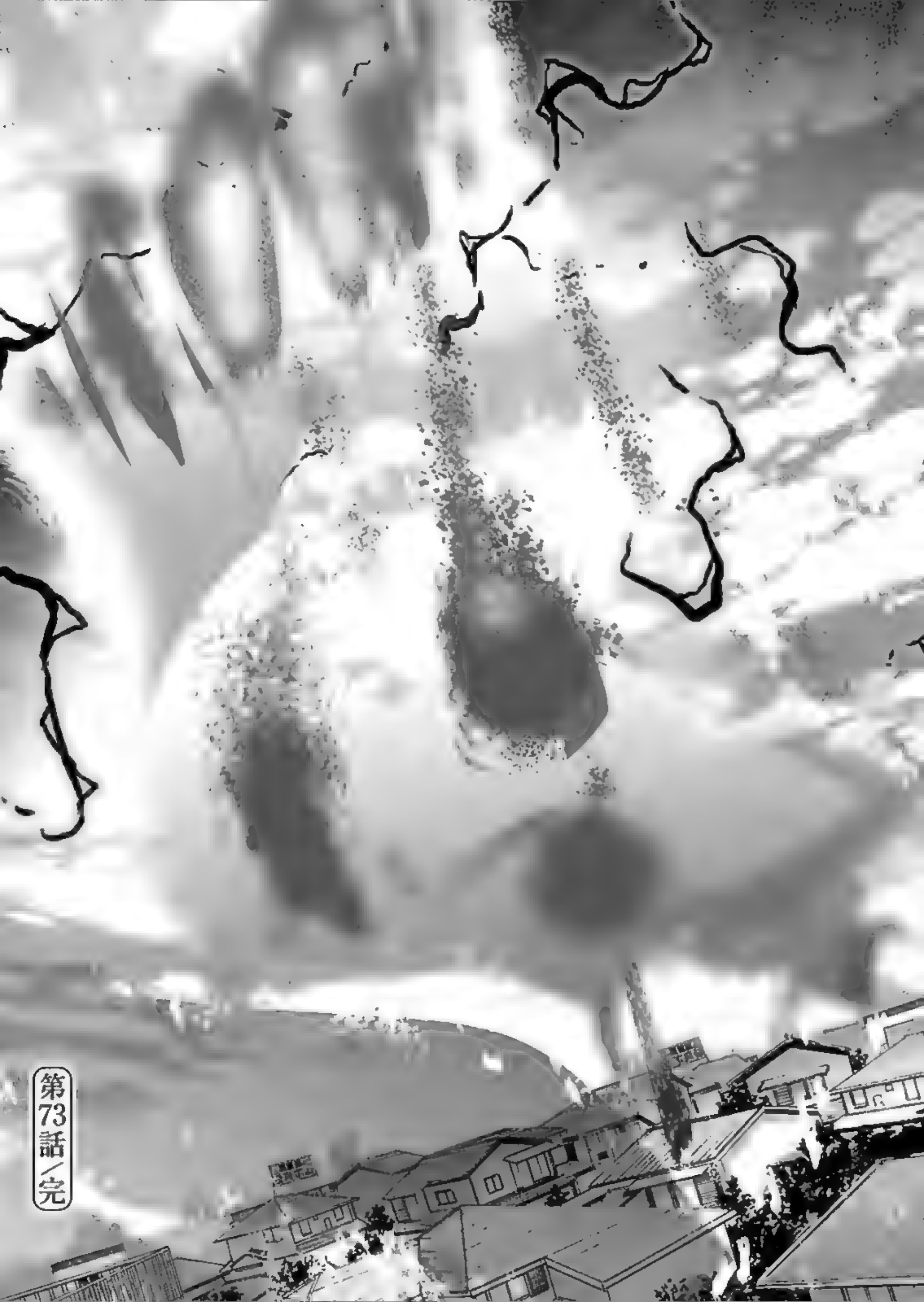

ミズキを頼むよ
吾は…
…約束を
そうだ…
はじまりは
生きて
約束
吾が旅の
はじまりは——
孤独でいて
不安はなく
両手には
決意と確信を
約束の始まり
吾が旅路は
不死の旅路に
あらず!


吾は・・・・・・死なかったのではない！


生きてきたのだ!


繭の真上にいたのだ
ミカサ殿やムサシ殿はいの一番に消えたやもしれぬ
松川殿も大町殿ももはや無事ではおるまい！
仮に本来彼らと過ごせたのがほんのいっときのことであったとしても
同じ・・などではない
わかるか
吾は怒っておるのだ！


?
すごいなぁ
ほんとうに…
?
ごめんね
ありがとう
ミズキ殿…？


第73話／完

第74話　ただひとりのひと






ミズキ…殿？
スザク


──あたしは伝言なの
？
不空(フクウ)
と
不二(フニ)
あの子達はこの時点で唯一自然発生した
因果を…
時を渡る能力者
唯一⁉
哥やカマドも時を喰らうではないか
あ──
──あれは
時を食べたり戻したりしてるわけじゃないの


羅睺のなか
羅睺と融合したこの世界で
『人間の意識』は
羅睺の体の一部
羅睺の中を廻る意識の流れ
血液とおなじ
カマドもフクウたちも
羅睺の中で羅睺の一部を奪い合ってただけ
……よくはわからぬがだから人間の時しか喰えなんだのか？
そういうふうに作られた
吾もか……
羅睺に


今の羅睺は
胴体しか
無いの
延寿殿が
それっぽい
ことを
意識とか精神とか…
首から上をまるっと
失った
胴体だけ
だから…
ミズキ殿は
羅睺の頭だった
のであろう…
うん…
そのために
羅睺が作った
作った？
羅睺はね
失った頭脳を
再生しようとしたの
でもうまく
いかなくて
すぐに
壊れるから
異能を持つ者を
集めて戦わせたり
かけあわせたり
何度も
…？


何度も
失敗しながら
待ちゃれ！
「羅睺が」と言ったが
それは羅睺の番衆のやっていたことではないのか？
方法は同じ・・
目的は逆・
同じ事をやっていたの
カマドやあたしを作ったのは羅睺
フクウを作ったり教祖を利用したりしたのは番衆
では吾は？・・・
妙だの・・・
話の端々が引っかかる
何故吾の話が出てこぬ？

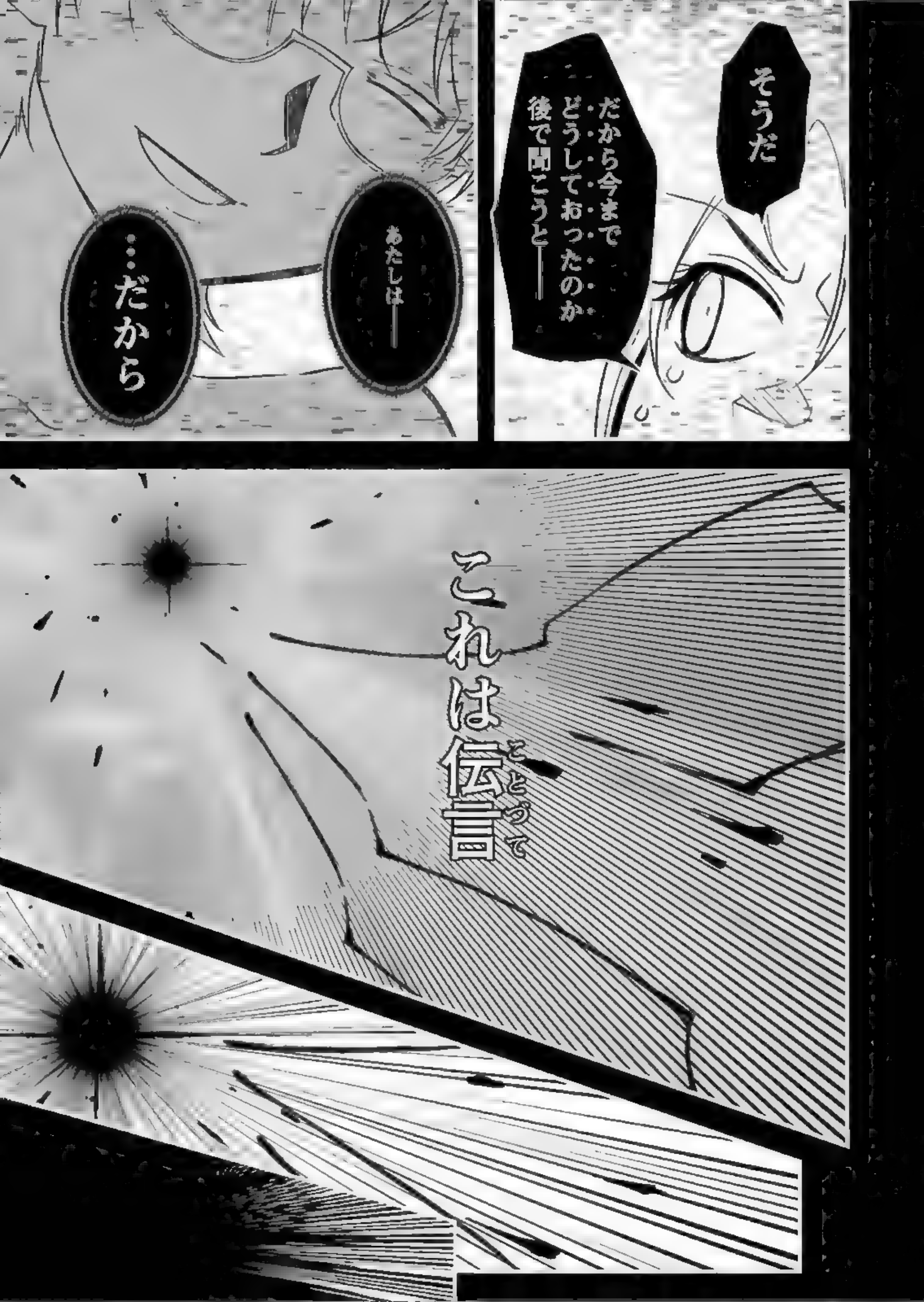


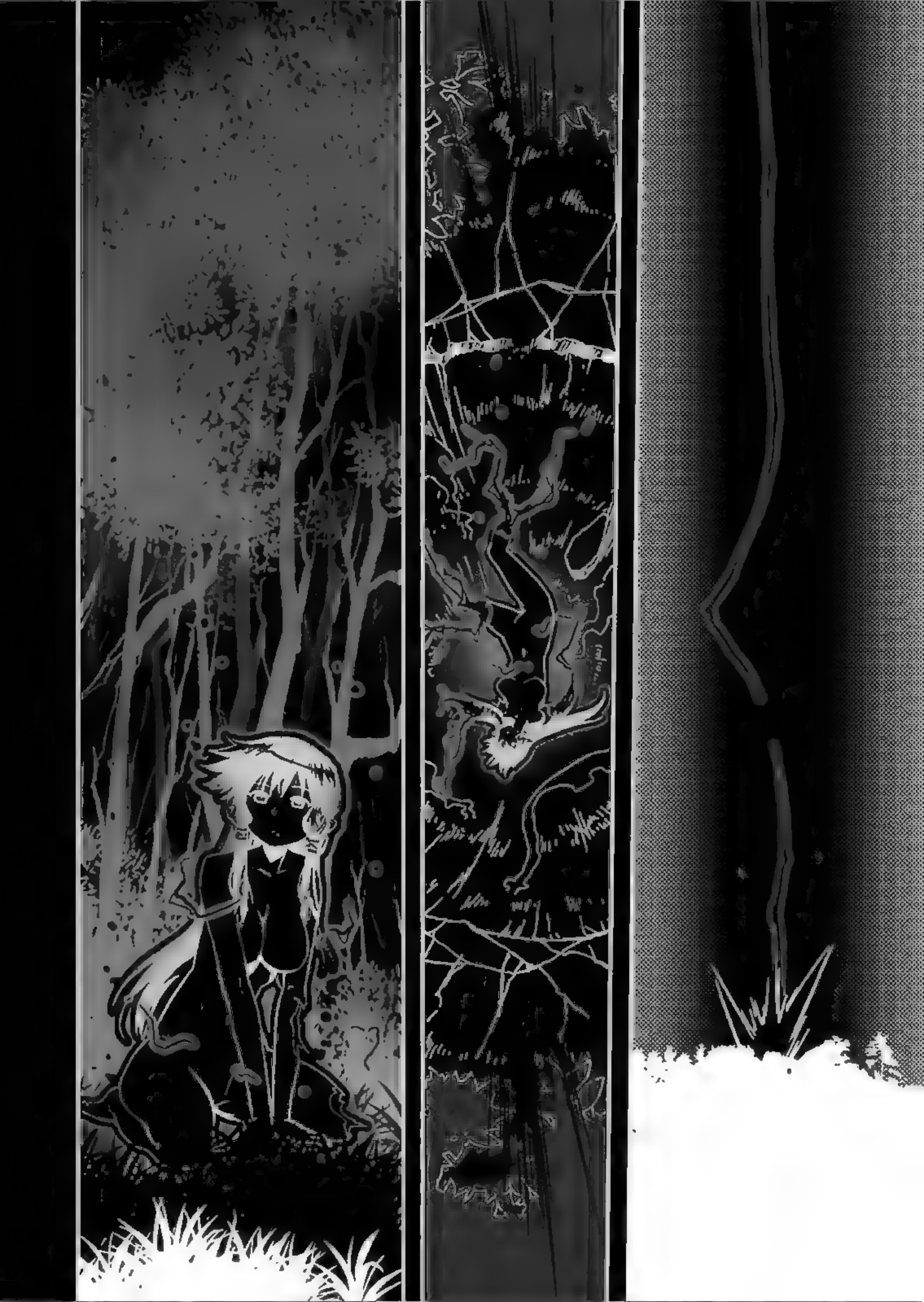
でも結局
うまくいかない
もんだから
羅睺は
ありモノを
いじるの
あきらめて
素材から
作りなおすことに
したの
いままで
できあがった
モノを参考に
羅睺がイチから
作り上げた
人間
それが
ミズキ殿
だった…と


そして吾らは出会った……
今思えばカマドが誘われたのか
吾は・・・のこのこと途轍もない化け物の前に現われたわけだ
羅睺が目指したのは
不滅の胴体を永遠に動かす
死なないこころ
でもあたしは・・・だめだった
だめとはどういう意味だ！
試したわけでもあるまいに…！
……



不空と不二
自然発生した唯一の
時を渡る能力者
それはさっき聞いた!!
あの高速移動って時をあやつる能力だったんだよ?
時を…?
少しずつ時を遡りながら移動することで瞬間移動する程度だった時間を越える力を
憑依した教祖が暴発させた
あの…とき――
時を…越えるちから…?
ちょっとどうなるかわかんないから…
あとよろしくね


そうだ
だから今まで
どうしておったのか
後で聞こうと――
あたしは――
…だから
これは伝言(ことづて)






…なに時代?
大昔…
過去…だと!?
そんなところに行ってどうやって…
帰ってきた…
あたしは
伝言


色々あったよ・・・
だけど・・・
あたしは千年ももたなかった
途中でこころがすりきれて
なにもかも忘れた私に
押しつけた
だから――
最初に覚えておるのは
黎明の天空にかかる果てなき藍青


これはあたしから・・・

スザク（わたし）への手紙




ごめんね
ありがとう


待て…
ミズキ殿――




死
……
消滅
もはや…すべてを思い出せる
吾はいままで何を偉そうに…
己に向かって説教など…
はは…
宮森のものはだれもかれもたいがいだとは思うておったが
他人事のように…
滅却
まったく…



武蔵殿やミカサ殿の死体に激高したり
延寿殿にせまられて気分が悪かったのも
羅睺を分解せよ
薄々気付いておったのだ…
吾自身が何者であるのかを…
羅睺は歪み
永遠は歪み
約束に反する
宇宙の歪み
旅路こそが大事であった吾が
あの住み家を大切に思うたことも



オオ
羅睺を平均に
オオ
オォ
拡散せよ
妾は羅睺
みな…
永き旅路の——
妾に死を
羅睺に涅槃を


羅睺に死を
やかましい
ボオオ



貴様やせいぜいが
数百歳程度であろうが！
情けない
「死にたい 死にたい」と
失恋した童でもあるまいに！
心の隙に
つけ込まれおって
ギリ
正直どうにかしてやる義理も無いが…
延寿殿の——
妾は——
わしっ
延寿おじいちゃんの
愛人では仕方ない



あの「刺青」は自分への手紙
全てを思い出した
忘れた正体と力……
全てを取り戻した
吾は宮森水城
吾はスザク



吾は
ギチ
羅睺の脳髄(なづき)
ブチ
オ
ブチ
ブチ
オ
オ
ズルッ
どけ
ぽいっ


羅睺(これ)は吾(われ)の躰(カラダ)ぞ
……ふん
なんじゃ？妾はいったい？
…暫(しば)しじっとしておれ


妾は死なねばならぬのじゃ
あー うるさい
…丁度よい
1人にはまだ
ちと広い
ん?


第75話　いきるひと
死を
ドゴゴゴ
バキッ
ズズ
漸く直の対面か
ズズ
ズズ


羅睺(らごう)に
涅槃(完全なる静止)を
オ
オ
オ
オ
オ

羅睺の番衆




…あいにく閑がなくてのちと待っておれ
慣れぬ世界でな
ここまで崩れてしもうてはちと手間だ
羅睺とは
災禍である
我らはひとでないものの総代
災禍を
番る者


我らは滅ぼすものではない
我らは封じるもの
番るための存在
賢しらに傍観者を気取るな！
他者を走狗に仕立てることは得意であろうが！
教祖にカマドに
ひとの良人まで利用しおって
羅睺の目覚めた先は見えぬ

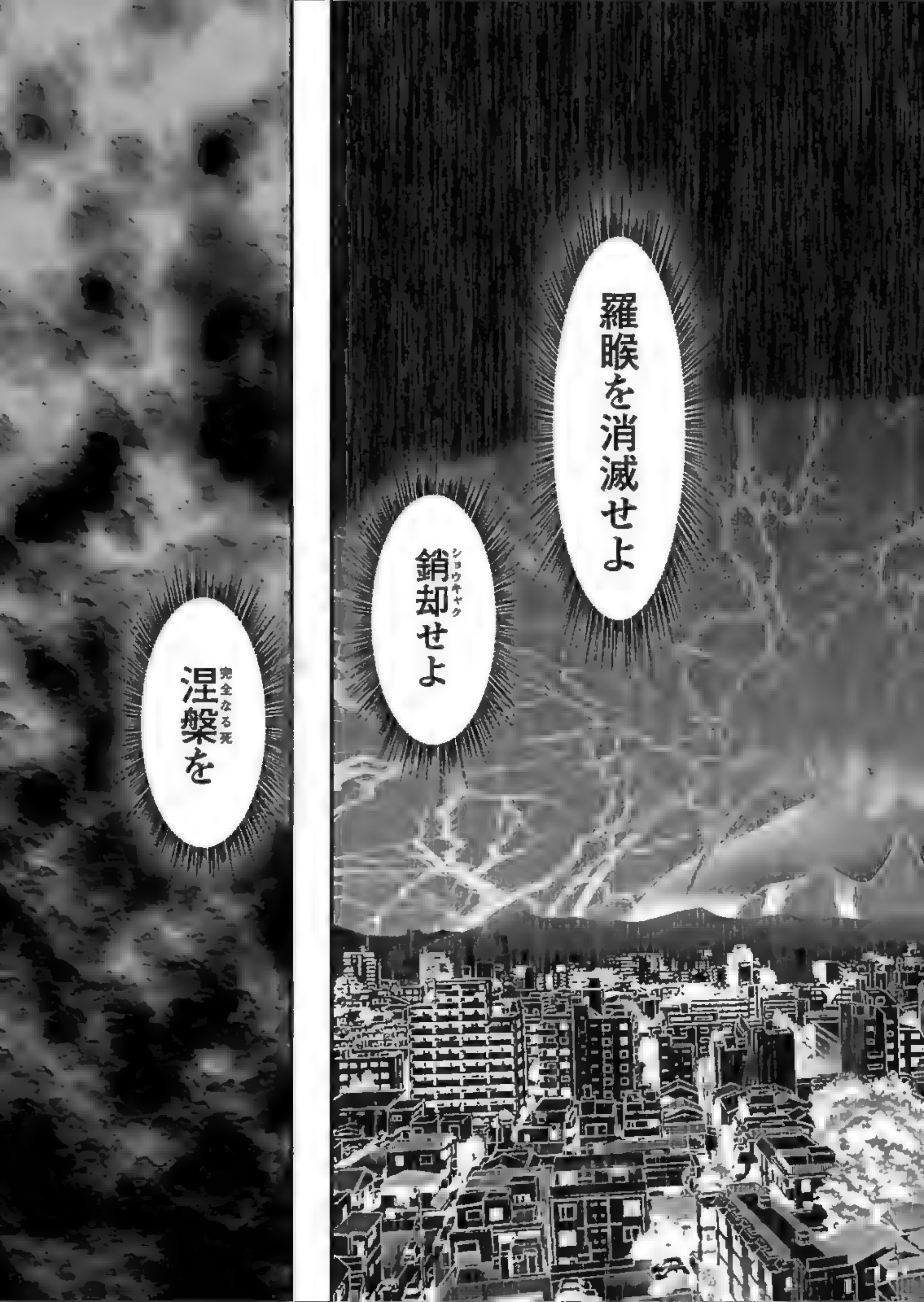

天地が見えぬ
今より先が視えぬ
「先」？
ああ…貴様らは先視をするのだったの…
……
は
傑作だ
未来が視えぬなどと当然のことに戦慄き
狼狽えておるだと？
ぬしらは年頃の童か


羅睺は
此の儘
滅ぶべし


天地の破綻を
静死する



「羅睺(らごう)」とは
1時(いっとき)先か
千年の後か
ひとたび目覚めれば――
天地凡て(あめつちすべて)を喰らう災厄


羅睺を消滅せよ
銷却(ショウキャク)せよ
涅槃(完全なる死)を


正直相手をしておる閑は無いのだがの
妾は死なねばならぬのじゃ
羅睺は…
そうじゃ！羅睺は死なねばならぬ
……あれ？
…玄関先のバカ共に中庭のぼんこつか
えい鬱陶しい
あう！
グネ
グネ



そうじゃ
妾は…
躰を…
妾だけの
永劫の躰を
手に入れるため…
羅睺は貴様の
躰にはなれぬ
心の隙を
縛られおって
だいいち羅睺は
貴様の思う
不老不死の
肉体などではない
なれば…
精神の牢獄を
脱するための
肉の躰…
いつかは
見つけて
みせようぞ…


今のぬしを見れば…
あの阿呆もさぞ狂喜したであろうが…
…ふむ？
いや なんでもない
まあ今は虜囚の魂じゃ
妾が貴様の寝首を掻くまではこの魂自由にせよ
延寿おじいちゃんの好みもアレだの…
そうだの——


…吾は正直色々と器能が増えすぎて整理に忙しい
ぬし…この正義の味方どもをどうにかしやれ
じゃが妾ではまた封じられるやもしれぬぞ？
ふむ…
ヌル
もってゆけ
ここは我らが庭ぞ
影に隠れておったくせに勝利を確信してのこのこと姿を現わした莫迦共に附けを払わせてやれ




おお
忘れておった
飲まれるでないぞ

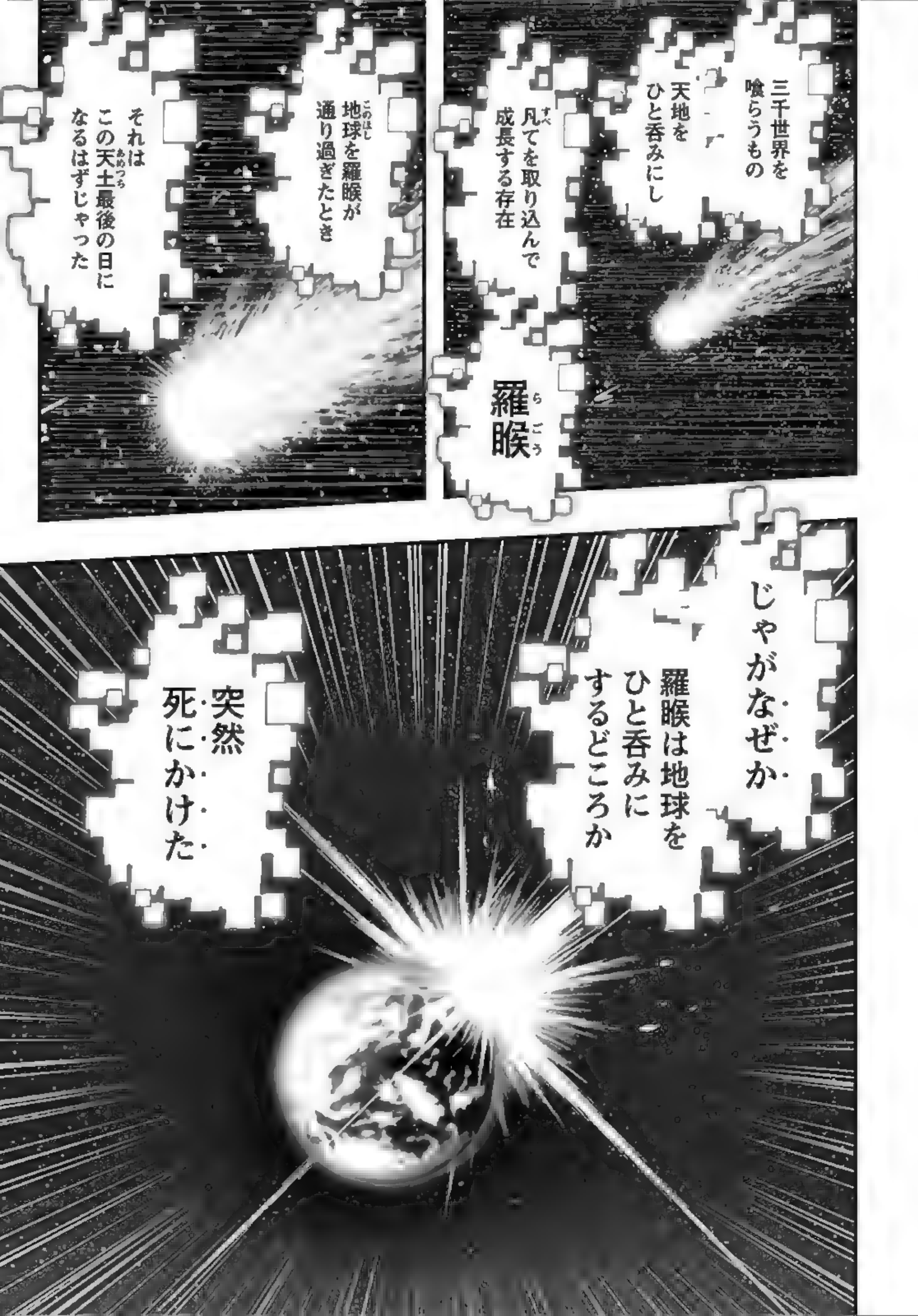

キチキチキチ
ビク
ビク
ギチ
ギチ
ギチ
ギチ
ゴキ
ジジ
ジジ


ギチチチチチチ
存在しながらに
虫に換わる気分は
どうじゃ


くぅわははは
異形の分際で虫のように怯えておるのか？
これは愉快じゃ
調子に乗って書き換えおって
長虫をそこいらに撒き散らすな！
では残りは多少愛らしいものに換えようぞ
チッ
じゃがその前に


虫ならば再び涌かぬよう巣を焼かねばな
貴様ら――
その腐れ眼で妾のなにもかもを盗み見おったじゃろう
間隙を突き縛りおったな
どれほどの屈辱であったか感じてみやれ


躰を貸してみよ
内側から…
見物してくれよう
こやつらは…
妾らが羅睺と呼ぶこれを番るために生まれた


三千世界を喰らうもの
天地をひと呑みにし
凡てを取り込んで成長する存在
羅睺
地球を羅睺が通り過ぎたとき
それはこの天土最後の日になるはずじゃった
じゃがなぜか
羅睺は地球をひと呑みにするどころか
突然死にかけた


傷ついた羅睺は
その存在すら危うくし必死でこの地にしがみついた
羅睺は永久不滅
いずれ宇宙を食い尽くす永遠の反逆者…のはずじゃった
その羅睺が
滅・ぶ・
「予定外」の可能性が生まれたのじゃ


そして
やつらが
生まれた
宇宙の規範
時の摂理
森羅万象が
やつらの誕生を
望んだ
やつらは
可能性そのもの
3つの可能性
この世界は
3度の可能性を
作り出すことに
成功したのじゃ
「羅睺(らごう)の死」を
番(み)る可能性


番衆（ばんじゅう）
やつらは
羅睺の復活を
阻みつつ
羅睺の滅ぶ
可能性を
見続けた
「可能性の
相殺」
他の可能性は
見ぬことで
封じ
ただこの宇宙を
守る可能性のみ
凝視し続けた


われらは真理
宇宙の唯識(ユイシキ)
空間の大義(たいぎ)
もうよい！


大義だ
真理(ことわり)だ？
ぬしらの悪意が漸(ようや)く理解できた
ぬしが言う天地(アメツチ)とは此処(ここ)だけのことではない
ぬしらは「ひとでないものの総代」
ぬしらにとってひとの天地なぞ捨て石なのだ


羅睺が目覚め
ここを食い尽くして
次の天地へ向かい
さらに食い尽くし
限りなく
成長する羅睺が
この世を永劫に
食い尽くす可能性を
消すためならば
吾が旅路なぞ
どうでもよいのだ
当然の摂理だの
天地凡てと
石ころひとつ…
比ぶるまでも
なきことか…


ズズズッ
だが否(いな)だ
ズズ
吾(われ)は約束したのだ
この天地(あめつち)に
吾自身に
ズ…
"生きる"と
ふふ…これは


残った可能性
だけでなく
これまでの
可能性
すべてを
喰らう気か
吾の滅ぶ
凡ての可能性を
今消し去ろう
いきるために

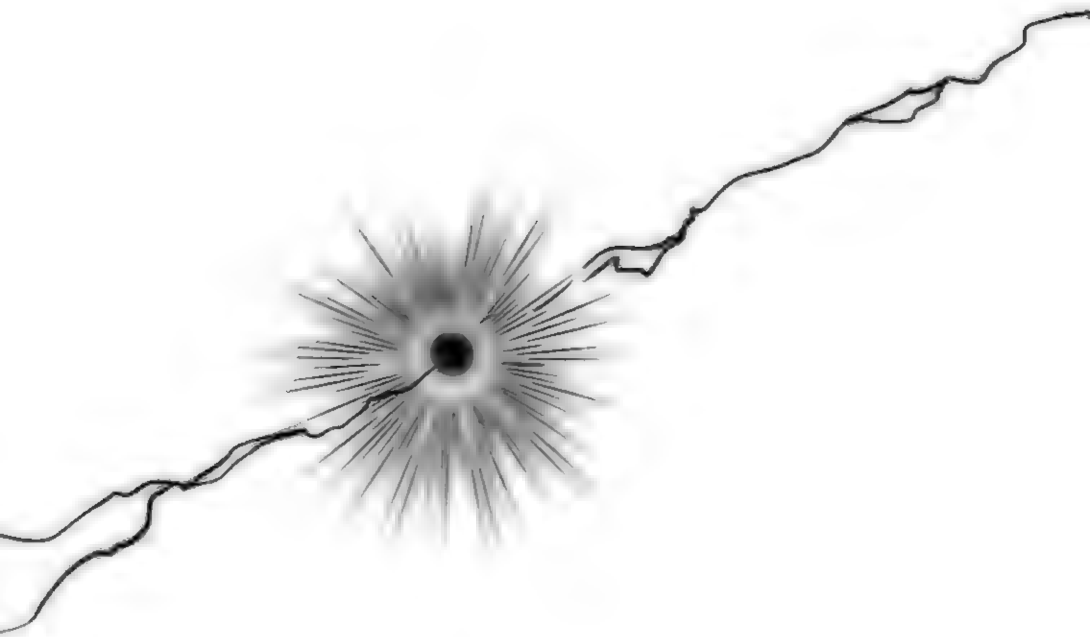

吾の滅ぶ可能性


かわりになにかが
うまれ顕現る可能性

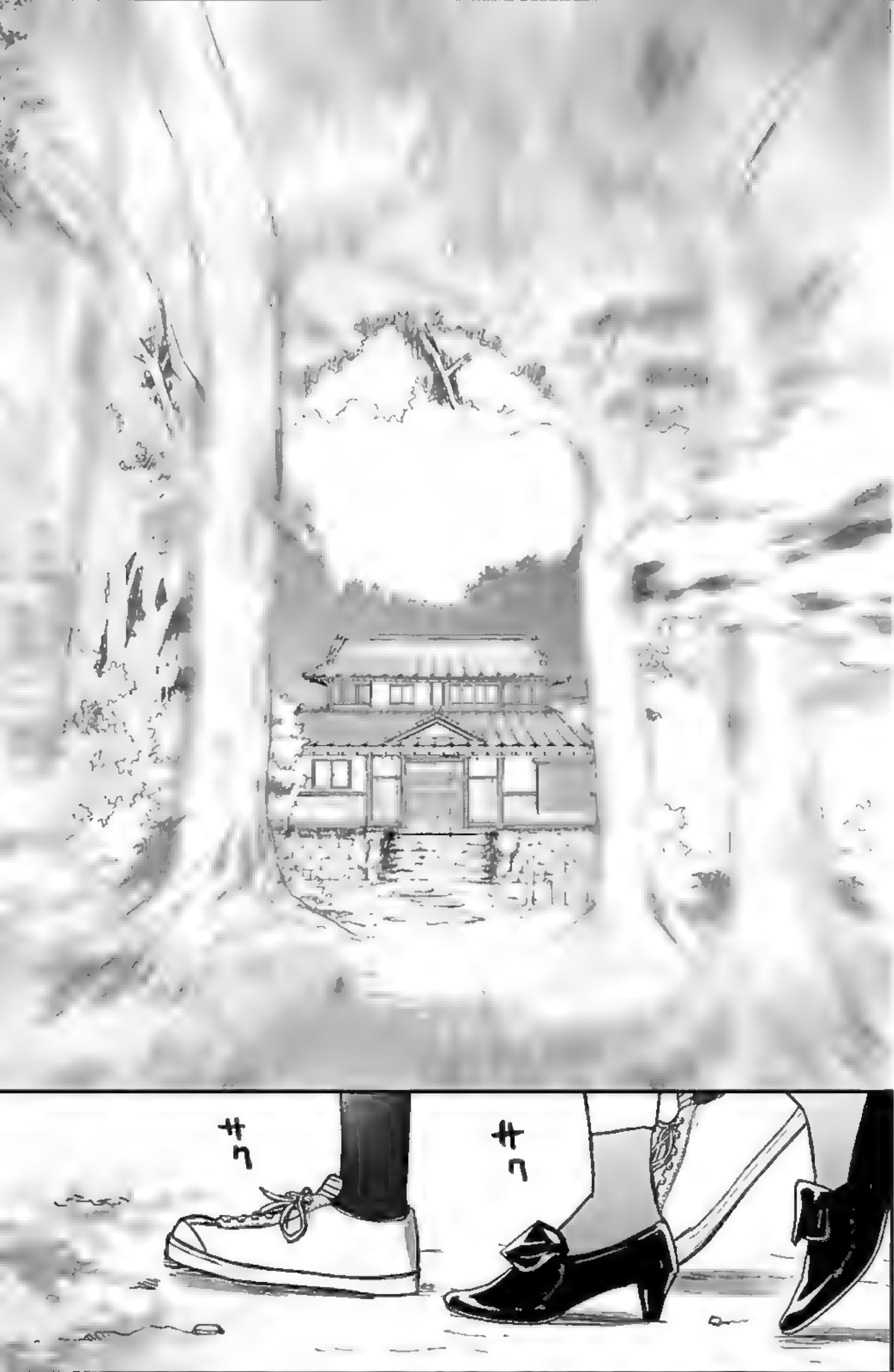

凡て
喰らおう



最終話
不朽のひと
- DEATHLESS -






ザッ
ザッ


こんちゃーす
どうも
お邪魔します
ああ
アンタらかい
ザッ
ザッ
調子はどっすか



ミカサさん
慣れたっちゃぁ
慣れたよ
アンタらにも
面倒かけるね
こっちゃ
好きでやってんで
ミズキは
どーしてます？
たまに
身もだえしながら
慣れようとしてるよ
よっしゃ
試したろー
ピンポーン
トタ
トタ
トタ


松川（マツ）！大町（マチ）！
遅かったね
2人とも


よう来・・・
よく来たね
さあ
上がるといいよ


硬え！
まだ硬えよ・・・ミズキ！
あふっ…おっ すまぬ松川殿！
ワッシ！
だーから松川だっつってんだろ！
こんにちは・・・ミズキ
大町だ
大町どの…あうあ！…
ペナルティ2だぜー
ワキ ワキ
待て！いつのまにこんなバツが設定されておる？
ドゴ
やかましい！
お 武蔵じーちゃん
なにを玄関先でいかがわしい事をしとるんじゃ！
カァッ
指導っす！
指導じゃ仕方ないのう
クル
味方がおらぬ…



んーでよ
これと これと… 中学んときからの参考書とか教科書
このへんで最後だぜ
感謝する松川ど… 松川
それにしても
松川は物持ちがよいなぁ
私なんて高校時代のすら受験が終わると同時に全て闇に葬ったぞ
ウチは妹がいっから なんとなく なんでもとっとくカンジかなー
それは申し訳無い事をした


大切に借りて一通り目を通した後返却しよう
いやまー妹はなんのかんのと新しいの買ってっから
しかし…「一通り目を」ねえ…
最初はさー
1年休学して勉強追いつくのってキビしくね？って思ったけど
ホントに読んだもん一目で全部覚えてんだもんなー
ズリー
六法全書を本当に丸暗記したしな…
おそろしい
まあの…
だが丸覚えしてみてわかった…
殺すな
悪い事だからか


違う
決まり事そのものより…理由が重要なのだと
ようやくあの言葉足らずの言うておった事が少しわかったというか…
ニガテなのでうらやましい
まー暗記しただけじゃどーなるもんでもねーけど便利は便利じゃん？
なんなら法理論の教科書も丸暗記すりゃいいし
…とかく吾には細かい積み重ねが足りぬ
そのあたりをなんとかせねばと思うのだ
だいたいそこまでしてさ
スーたんがミズキのフリしなくていーんじゃねーのって思うけどな
……


そうだな
口調が変わった事くらい時代劇マニアの男にもてあそばれたとでも噂を流しておけば皆 生暖かい眼で流してくれるだろう
なんだそのセッテー
じゃなくてよ
そーまでして大学続けたりする必要あんのかって言ってんの
スーたんが
ミズキと同一人物だってのは納得したけどよ
ふ…
よくもまぁ納得してくれたものだ
吾にも実感は無いというのに…
軽々に信じられるような話ではありませんでしたが
なんというか…


メッキが剥がれてきたあとの抜けっぷりがなんか通じるとこあったからなー
松川(マツ) はっきり言うモノではない
ぬう…
ハハハハ
クッ クッ
また女が増えてる！
勝手に会員を増やさないでって言ったでしょ延寿(エンジュ)
孫と友人たちだよ
ヤッホー
あら…失礼
あいかわらずだな延寿じーちゃん！
ハケぃじゃん!!
ゆっくりしてってね
……会員ってなんだ？
鉄の規律と鋼の絆という単語をよく聞くが…
ドタドタドタドタドタドタ


よく「相方」が許すな
あそこはいわく言いがたい関係性のようだからの
延寿さん…
大町殿!? これぱかりは勧めぬぞ
ありゃバージンがさわるとヤケドするヤツだって
いやあの
怒っていいか
それではまた
うむ感謝する
じゃなー
――ミズキ殿の影から始めてみようと思う
影武者をするということですか?
どのみち本格的に人として生きてゆくなら
せめて最初はミズキ殿1人分の生くらいはなぞってみよう
1人分くらい…ね


ミズキはそんな事望んじゃいねーと思うけどな
かたちを残すのだ
かたち？
ミズキ殿の人としての生
こういうかたちの事実があれば
ミズキ殿の存在が保たれやすい
オレらがいんのってそんな曖昧な世界なのか？
いいや
吾がそうはせぬ
だからこれは
吾の戯れだ
フツーだなー俺ら
相対的に平和だということだな


カッ
そこの女共
あ?
ッだコラ
答えよ
このあたりで宮森（ミヤノモリ）という家を知らないかね?
それなら——
すんませんオレらこのへんのモンじゃないんで——
…ふんそうかね


忘れろ
カッ
カッ
カッ
カッ
——ふん
町はせせこましいのに家が多すぎる…
カッ
カッ


ここまできて
歪みの場所が
絞れなくなるとは
ハァ
ハァ
そこの男
ハァ
私ですか?
なんですか
あなた
私は
忙しいんですよ
ノルマが
キツいんですよ
ハァ
答えろ
ᚦᛁᛋᛟᛗᚱ
ル
ル
このあたりで
宮森という
家を知っているか
はい
ル
ル
ル
知っています


ほう…知っているのか
場所を教えたまえ
知ってますが行ってませんすみません
50代から60代をターゲットにしてますんで対象外なんです
リサーチしてます気弱で自意識の高い夫婦のみの世帯が狙い目なんです
いや場所を…
勿論効果あります健康になったというデータあります
治るって表現はNGです厚生省の認可も受けてますマルチじゃないです
最近大手までグレーゾーンに入って来てもうわけがわかりませんよ!
——黙れ
忘れろ
ここか?…
さほどの圧力は感じないが



ジャリル
ウチになにか用かい？
見ないカオだ
ここのお家の方でしたか
ああそうさ
セールスなら帰っとくれ
これは失敬
ご婦人(マダム)――
!?



──のなりをした
なにか
こんな人のふりをしたものがいるということは…
アン…た…
滅べ
ᛗᚷᛏᛁᚼᛈᛏᛁᛟᚾ
ゴ


ふははは
間違い無い！
ここに
ラゴウがあるのだ！


宮森（ミヤノモリ）
宮の守（ロイヤルガード）
ニコッ
深い森の妖精
宝箱を守るドラゴン
秘密には番人がつきものだ
ヒュッ


止まれ
ピタ
キュ!
ぬぐぐッ! 動けん!
ギギギギギ
おのれい 怪しい ガイジンめが!
爆砕せよ
ボトボト
ボトボトッ
フウ…


邪魔が入るのは好みではない
キンッ！
ドッ
オン…！
ほう…新たに結界を作るとは…
何者だ
飽くなき知識欲が
魔術師を創る
ズ
ズ
ズ


これよりこの結界は
我が魔術の領土


なかなか
やってくれる
ではないか
魔術師とは
初めてだの
欧州あたりの
客人か
ド
ッ


異常な存在・・・
貴女も秘宝の番人か
番人ではないスザクだ
そのよびかたはムカつくのでやめよ
…魔術師
ガウェインだ
ここにラゴウがあるのはわかっている
ラゴウを得た者は世界を手にすると聞く
…ガウェインとやら
ラゴウを得てどうする
楽園でも築くか？
魔術師とは全てを知るためだけの存在


親を贄とし
子を供物に捧げ
己以外の全てと引き替えてでも世界の全ての秘密を知る
今日それが叶うならば
明日死んでもよいと考えるのが魔術師だ


魅せてみろ!
…なかなか!
この程度ではあるまい
こちらは教団全ての秘儀をもってのぞむのだ!
ぐぐ…


よこせ
世界の秘密


薄い
軽い
ベンメリアの地下にて
ラーヴァナ王の遺骸を
守っていた古代の
機械衛兵達の方が
余程厚く重厚だった
これでは
ゴロン
世界の秘密…
神眠る地…
というのも
流言の類か


ぎん

ぎり…
ここは
入り口…?
何が起こった
今のは幻影か?この私に——
だが魔杖(ワンド)は…
全てが現実だと言っている
ザッ
ザッ


はられ？
にっこり
なにか用でありけれます？


食い尽くせ
ギギョオオ
グッド
重厚なのは当然
世界の秘密は軽くあってはならん
怖ろしいものほど美しいのだ
この古代ボリビアの魔術師が死体処理に使っていた葬送の鳥のように！
全てを綺麗に食い尽くす私のお気に入りだ！
さあ次の守護者を出すがいい！


ブァ
ニタぁ
ブ
むん


ズオオオオ
魔術の鳥を
喰っている!?
どういたしまかりこしましょう


やれやれ未来が見えなくなって気楽になったと思ったら今度は斥候役かい
全部食べられてよきにはからいられますか？
喰ったモン調べるのが先さ
よく味見しな
手強き守護者
いや
守護の獣か
大食らいの獣だ


躾の悪い魔獣は
ザ
オオォ
主亡き剣よ
古来
勇者の剣で
征伐されるものだ
ゴオ


アティア秘跡を守る石獣すらを貫いた魔術の剣！
必殺の一撃を大いなる秘密への敬意とする
こりゃ強力な式神だ
はれら〜〜


なんじゃ剣筋は素人かい
ギギギギ
軽い剣じゃのう
おまかせにしてあれ


新手か
だが問題無い
勇者の剣とは12本あるものだ
あるものだと言われてものう
斃してはいかんのか面倒な…
加勢せい


ゴオ



これも幻影ではない
分身!?
重複的存在
時間操作？莫迦な
世界の法則に反する
プゥ


神だ魔法だと言っとるヤツらが法則とはちゃんちゃらおかしいわい
我ら魔術師の寄って立つは英知の堅土
法則の追求
ギリ
宗教者共より科学者のほうが余程近しい
スーツ着て魔法とか言われてものう


スーツこそ現代の法服（ローブ）！
論理的な形式美と機能美でできている
理論こそ勝利をもたらすのだ！
クリクリクリクリクリ
淑女よ
獣には剣（つるぎ）を
剣（つるぎ）には毒を！
シュポン！
その声は神をも堕落させると言われ
マラルテ砦5千人の軍団が瞬きする間に狂死したという
嘆きの毒婦
フオオオオオ
Say wussup



ムホッ
Fack'n guy
初めましてご婦人（レディ）
ス…
？
いつの間に…
冒涜せよ
侵し殺せ
ホ
Chu♥


あれ？君…
笑顔が可愛いとか言われない？
フモ
オォ
あ


…あれ?
なんじゃ たわいも無い
なんか 満足して 成仏しちゃった みたい
昔のひとは 奥ゆかしいね
妾は心が 広いでな
目の前で他の女を 褒めようが 接吻しようが 大きな心で 許してやろうぞ
ミズチちゃんは 心が広いなー
だが言ったな?
愛人は 99人までじゃと
あれ? 一人越えてた?
昨晩の女で 99人目じゃ
この亡霊の女性まで カウントするんだね
あ ごめん 僕ちょっと 野暮用
あとは適当に やってて


……認めよう
幻影か催眠か
私は欺かれている
ここには未知なる最強の守護がある
それはつまり最奥の秘密が隠されているということだ


絶滅の雷鳴
ᛏᚺᚢᚾᛞᛖᚱᛒᛟᛚᛏ
最大の神秘には
最奥の術式で応えよう


アイルランドのニューグレンジに隠された異界の門を守るゴーレムの群れに使用して以来72年ぶりに使う
古代フォウォールの軍勢をなぎ払ったという
何者も命を保つことはできない神罰の雷だ
なるほど確かに無理が顔に出ておる
ほら少し・・・戻してやろう・・・
!?
貴様！世界の法則の外にいるのか
時間を操ることができるとでも！
時間など・・・いじっておらぬ・・・


ラゴウ？……
羅睺が
ちと思い出しただけだ
ここが羅睺の内宙だというだけだ
世界の秘密…というほどのものではない
もはや
この星がどれだけ深く羅睺と同化したのかわからぬが



みな羅睺の思い出なのだ
羅睺が思い返せばぬしらもさかのぼる
莫迦な！
こんなもの幻だ！
美化も幻滅も
思い出ならば改竄が可能だ
認められぬ
ぬしも思い違いをするであろ？
非論理的だ！
我らが化け物の記憶に過ぎぬなどと！
記憶ではない



思い出だ
おや？なんでこんな田舎に場違いなジェントルマンがいるんです
スパッ
私は…なぜこのような極東の島国に？
紳士の恰好してるくせに失礼ですねーあなた


そうだ…
「ラゴウ」を探しに来たのだ
森羅万象を恣にできるという世界の秘密を
んーーー莫迦ですかあなた
それじゃまるで…
神そのものじゃありませんか
そうだ…私では神にはなれない
帰ろうーーー
おたっしゃでー


世界の秘密を今日知れば明日には死んでよいとか言うておったの
・・・死ぬるとは気楽なことだ
まったく
ありゃダメだ見込みないわい
前に来たなんとかっちゅう秘密教団の連中の方がよっぽど歯ごたえがあった
術師ん中じゃ一番武闘派だったけどね
男に用はないなー



能力者というのは存外世界中にいるものじゃが実力者は滅多にな…
ま 今はいなくてもいつか現われるかもじゃない
ふふ…汝が壊れぬうちに見つけれればよいことじゃ
オマエが壊れる前に羅睺を制御できるヤツをさがすっていってものう
だいたい壊れると決まったわけじゃなかろう
ゆるゆる生きてゆく自信はあるがの
なにしろ永遠だからねえ
少なくともアタシらは自信無いね
姐様がお寂しくなかれよう
カマドらのかわりも必要でありなのです
気の早い話だの
先は永いのだ


それに――
まだ肝心のものが揃わぬ
ツ
タァン!
やりました!お姉様!
頼まれていたヤツわッかりましたッ!
ほう!
ソイ!


きっかけは行方不明だった埴安家の先祖代々の蔵書の一部を偶然発見したことでした！
資料は亡くなったお婆さまの手により意図的に秘伝の暗号にそって各所へ分散されていたのです！
秋葉はそれをお金と女を縦横無尽に使って集めたのですが――
そこから始まる古代教団の秘密から海賊の秘宝までつながるいらない秘密の数々についてはいずれピロートークで…！
あーわかったわかった
うひゅる
ムリュ
ムリュ
ムリュ
うむうむ秋葉はつかえる男子だの
実はまったく期待しておらなんだ
よし
言葉責め…イイ！
ブルルルルッ
自力で虱潰しに探すつもりでおったが…
手間が減ったぞ助かった


さ
吾が唯一喰えなんだものを
喰いに往こうか


あれは
たぶん
まだあたしが
自分の名前を
覚えていたころ


あたしの知識でわかるのは
少なくとも何千年か前ってことだけ
あれは
あれは
あれは
自分が…羅睺が自らを再生するために作り出した
羅睺そのものだって気付くはるか前


そして
…そして
…そして
あのー…
状況のあまりの笑えなさに
ここどこですか?
西暦とか………わかんないですよねー
軽くなげやりになったことをかすかにおぼえている



はじめのうちは
楽しむ余裕すら
あった気がする
考えるひまが
なかったのも
あるけれど
大きかったのは
やっぱり
無敵だっていう
自覚
とったどー
?


さんざ反省したつもりでいたけれど
深く考えず調子に乗ったり
だからあたしが莫迦なんだけど
漠然と（ばくぜん）
そのうち帰れるんじゃないかとか




最初(はじめて)が
いつだったか
なんてもう
覚えてない
覚えているのは
じぶんのいしで
じぶんのちからで
じぶんのいかりで
ひとごろしを
ひとごろしを
ひとごろしを
ひとごろしを


滾るのも
哀しいのも
嬉しいのも


満ちるのも
恥ずかしいのも
怖いのも
ぜんぶ
最初の1回だけ
だったということ


はじめの100年は
神様にされた


次の50年
悪魔として過ごした


飽きてまた神に――
鬼神に――
愛しくて壊した
憎くて守った
あるとき気がついた



こころが
しんでいく
去ってゆく
ひとたち
果てしない
記憶
永遠に来る
あした
くりかえす
おそろしい
黎明(よあけ)


きょうもまた
なに・ひとつ・不安のない・一日が
はじまる
スザクのところまで…
スザクって誰だっけ…
あとどれだけ…
いつたどりつくのだろう
だめだ
あたしがなくなる
そうだ
だから
みんな
誰…
倦んで
誰…
壊れて
真っ白に

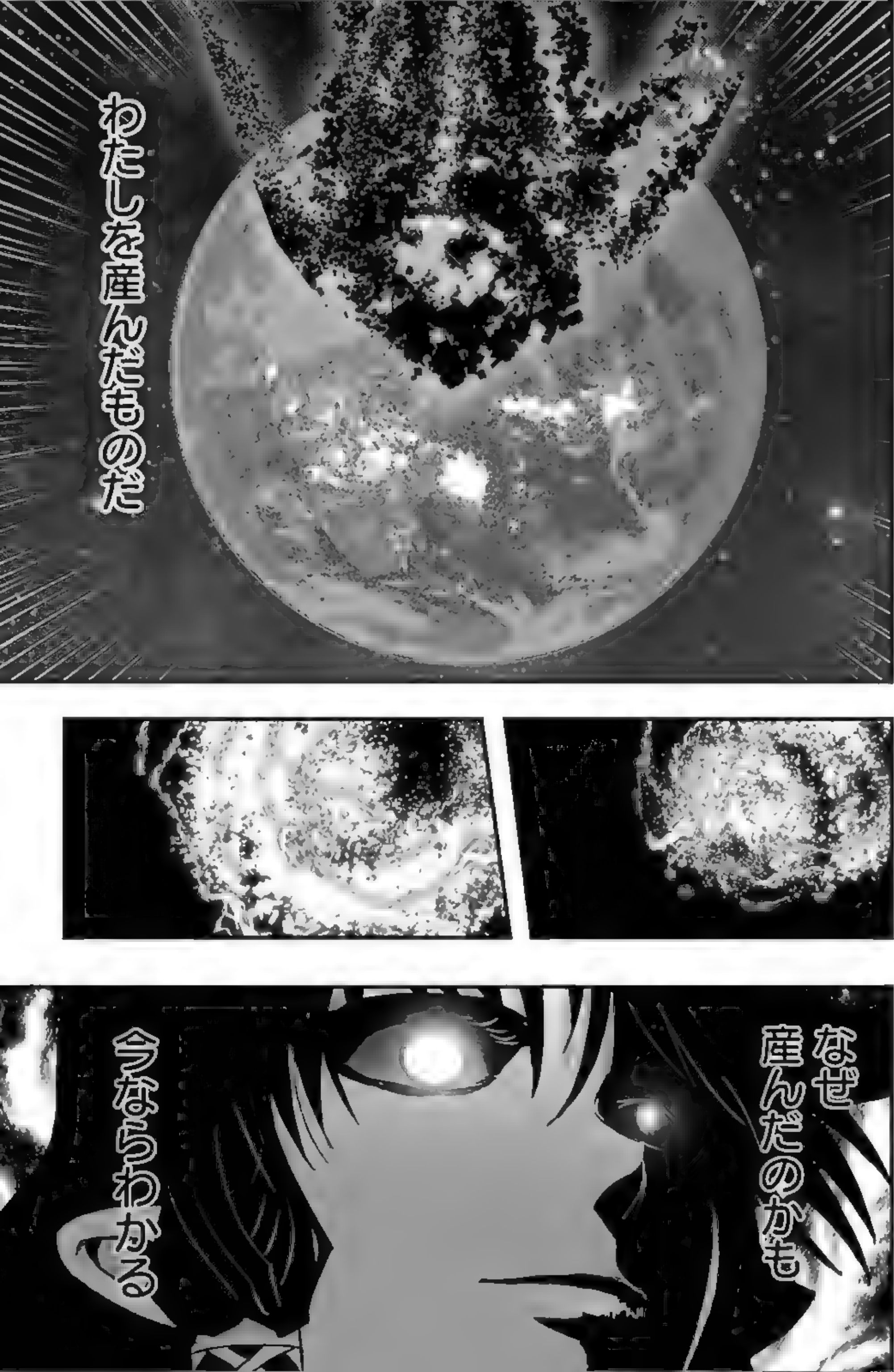

みなこころが朽ちていた
それが限界
こころの有限
スザクって誰…
──ああ
そうだひとりだけ
スザクって…
ひとりだけ
わらってた
スザク
ないてた
おこってくれた
スザク
そう
今ならわかる
この永遠の夜明けを越えて


あれ・・がどれだけの
奇跡なのか


そうだ
思い出した
こんなに
かんたんな
こたえ
あたしが
なんのために
ここにきたのか
わかった
あたしは
準備を始めた
前提として
あの未来へ
続く道を作るため
成長が必要だ


強大な
こころが削れていることは好都合
化け物になるには
化け物へ
どれだけの時が過ぎただろう
それは訪れた
正直ほっとした
少なくともこの時間は未来へ通じている
未来にあって
過去になかったもの


初めまして
羅睺
見た瞬間理解した
凡てを喰らうもの
なんでいままでわからなかったんだろう
羅睺
あれはあたしとおなじもの


わたしを産んだものだ
なぜ産んだのかも
今ならわかる


あたしが


殺(こわ)すから


羅睺から
生まれた
羅睺は
羅睺を
殺せる存在だ
この日のために
ありとあらゆる
力を取り込んだ


あたしは
羅睺を
喰った
頭脳(?)を失い
瀕死の羅睺は
本能のままに
地球と同化を始めた
虫のように
蛹になり
繭をまとって


そして羅睺は己の
再生のために
やがてあたしを
作るのだ


前提は揃った
やっと
そのときが
来た


喰らった能力(ちから)を
全て解放する
よけいなものは
捨ててしまおう
いちから
ただの
夜叉として
始めるのだ
たぶん
必要なことだ


「手紙」を用意した
あたしから
スザクへの遺言
情報を保存する能力は意外とすぐに見つかった
というか見覚えがあった
刺青の妖
あれがあたしの手紙だったなんて
知っていれば気恥ずかしかっただろうか
そんな感情も残っていないけれど
スザク
友達みたいで
先輩のようで
先生めいていて
お姉さんぽい
お母さんみたいだった


ほんとうは
あたしから
生まれた
娘だった
なんて
なにを伝えよう
まず謝ろう
ごめんね
なにもかも
押しつけて



もう
思い出せない
けれど
あそこには
だいじなものが
たくさんあった
気がする
さあ
最後にあたしを
消去しよう
羅睺(あたし)を殺せるのは
羅睺(ふたり)だけ
そして
ひどいことを
願おう


――約束してほしい
どうか
わたしたちがであうまで
何千何百年を
ばけものとして
生きて




粗忽者（そこつもの）が
そういうのを
丸投げと
いうのだ
もう少し痕跡を
残しておけ
秋葉が伝承を
絞り込んで
くれたので
存外楽に
見つけたが
いらぬ苦労を
するところだ



躾りせい
ミズキ殿


なつかしい ひと
……だれ
…そのようになった ばけものを幾度もみた
…みな ただの石塊のようになって 消えていった
あたし…
そうまでなりながら あきらめずに ようやった
ぬしは届いたのだ
ふふ… ミズキ殿にしては上出来だ
とど…
いた…



そうだ
これが吾だ
あの間の抜けた後ろ姿が吾になるのだ
ぬしは
帰りついたのだ
よくぅ
やった！
ポッ


何故あのような
こころもちだったのか
いまならわかる
見よ
吾らの黎明だ
最初に覚えておるのは


黎明の天空にかかる
果てなき藍青
ひとりある吾


孤独でいて不安はなく
両手には決意と確信を
ああ——



永き旅路が始まるのだ
そうだ
ファサ…
思ってもみなんだ
はるかな旅路の果て
ミズキ殿に喰われるとは
吾を喰ったのが吾自信であったとは



そして今度こそ
吾がミズキ殿を喰うのだ
ズ
これで・・・あいこだ


ミズキ殿に
永遠は無理でも
吾の一部には
なれよう
さぁ
ゆこうか
ザッ
吾も
達者での
よき旅を


決意と
確信があった
永(なが)い
悠(なが)い
久(なが)い


ながい旅路になる
スザクと申す
——不安はない


吾らは朽ちぬ
死なぬ
は…
ほんとに
きれいなひと——
あの……


いきるのだ

終。

あとがき

まずはここまで読了いただき最大級の感謝を申し上げます。

数冊の掲載誌を渡り歩き、結構な分量の長編を無事着陸させられたのは、
関係者各位、わけても読者の皆様のおかげです、
やりたい放題やらせていただいてどうもありがとうございます。

はやいもので、6年ほどの月日をこの作品と過ごし、
様々な出来事や変化を目にしました。

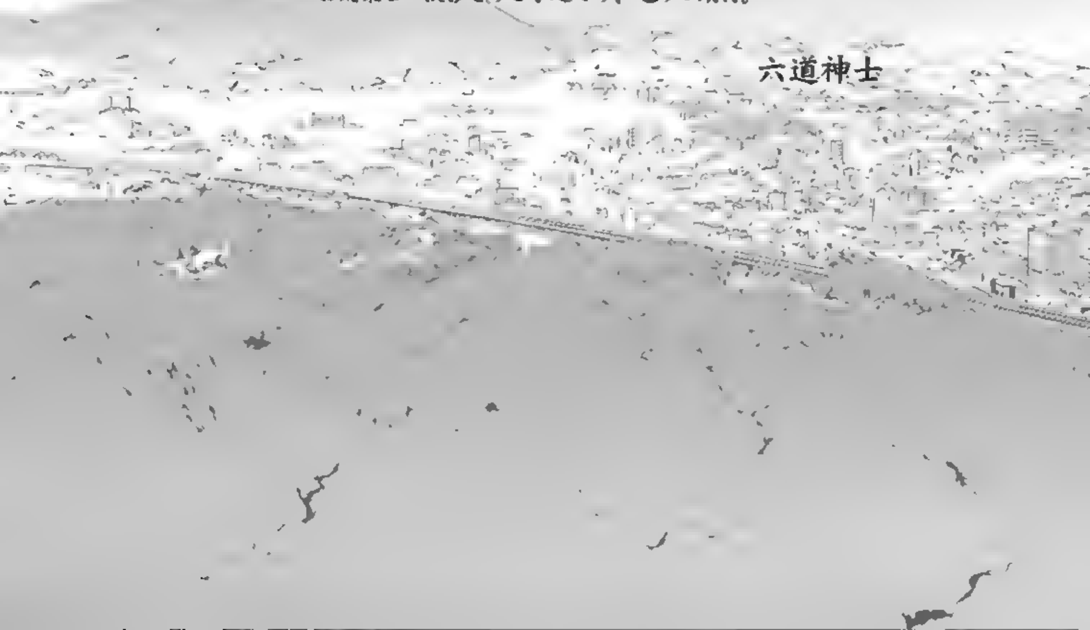
プ〇キュア6本、ガン〇ムは…何本だったか…という時間。
ゲーム機は一世代進化しました、がんばれ花札屋。
ゲーム関連は何度目かの3Dへの挑戦を始めています、
VR技術とても楽しみです。
久方ぶりにアニメに関わらせていただいたりしました、
相変わらず刺激の多い経験でした。

そんな短くはない期間を、最後までお付き合いいただき、
あらためて感謝いたします。

次の作品の終了の挨拶ができるころにはまた、
いくつかの事が拍子抜けに終わっていたり、とんでもないことが
起こっていたりするのだと思います。

世の中で起こったたくさんの楽しい事を振り返って、
お気楽なご挨拶をする予定です、乞うご期待。

六道神士




デスレス
・製作
六道紳士
・作画補助
井上さん
木林田 ウナム
たけぽんG
長老
春夏秋冬 鈴
・担当編集
筆谷芳行
（順不同・敬称略）

少年画報社

http://shonengahosha.jp

電子書籍版

デスレス

12

六道神士

デスレス

DEATHLESS



六道神士

Rikudou Koushi

Ragoh had been finally brought to perfection. However Mizsuki seemed come back to his sense again. She had gotten tons of unearthly ability from her dim. Suzaku attempt to stop it from destroying the world with her. But she was indisposed to cooperate a bit. "It would erase a thousand years till now and ninety percent of being on the earth, it is that, that's all." she said. Suzaku shuddered at her change. Mizuki started to describe unbelievable history of Ragoh and itsself... The best Chuanqi romantic manga by Rikudou Koushi has finished now!

